

つなげよう つながろう
ふたばのわ



「ふたばのわ」は双葉町の結びつきを
深めるためのコミュニティ紙です。
自治会・団体の活動紹介や町民同士の
新たな交流の場を取材しお伝えしていきます。
「ふたばのわ」を通して町民のみなさんの
つながりや笑い合う場を増やしていけたら。

ふたば×ならば スタディツアーでの1枚

- ▶ふたば×ならば スタディツアー-(P2~4) ▶ふたばのイトコ再発見!~四季を彩る前田川(P5)
- ▶ふたばのわスマイルフォト(P6) ▶町からのお知らせ(P7)
- ▶放射線モニタリング情報・後世に残したい双葉町・編集後記(P8)

■発行：双葉町秘書広報課(☎0246-84-5202) ■企画・編集：ふたさぼ(双葉町復興支援員)

インターネットでも つなげようつながろう ふたばのわ

 町公式フェイスブックページ ▼
<http://facebook.com/fukushima.futaba>

 町公式ブログ ▼
<https://futabanowa.wordpress.com>



ツアー

STUDY TOUR



2月25日(土)、26日(日)に双葉町復興支援員(ふたさぼ)主催で開催された ふたさぼ×ならはスタディツアー。双葉町や檜葉町の町内で活動する人の今の生活や課題を知ることで“ふるさとの未来”“ふるさととの関わり方”を考えるきっかけづくりを目的に企画されました。

それぞれの町の状況を知り、自分にできること、そして双葉町のこれからを考える大きな一歩となりました。

1日目

ふるさとの未来を知る

in 檜葉町

平成27年9月に避難指示が解除された檜葉町内で、檜葉町のために活動、仕事をしているみなさんをゲストとして招き、

- ・ 町への想い
- ・ 今の活動・仕事・生活
- ・ これからやりたいこと

についての質問を交えながら、お話を聞きました。

一瞬にして大勢の人生を変えた震災と原発事故。ゲストのみなさんも、その後の生活や考え方に変化があったそうです。震災前と後で仕事の内容に変化があった人や人とのつながりを今まで以上に大切にしようになった人、そして「若い世代で町を盛り上げたい」との想いから活動を始めた人もいました。

「檜葉町に住んでいても、いなくても町のためにできることはある」「自分が楽しいからやっている」などゲストのみなさんのお話は趣味や日々の暮らしのことが中心で、参加者はその自然な様子に関心を持ったようでした。

三浦寛己さん (ほっつあれDE いいんかいっ?!)

- 町の若者たちが集まり、自らでイベントを企画・参画し町を盛り上げている
- 何よりも運営側が「楽しい」と感じる事が大切
- 檜葉町は楽しいことができる町だということを子どもたちに知ってほしい



高原カネ子さん (ならはふるさと案内人・語り部)

- 町内案内や語り部の他に、和布細工教室などを主催
- 趣味を通じて人とつながることでパワーをもらっている
- 町に戻ることができない人の気持ちを考えながら、自分にできることをする



鈴木謙太郎さん (木戸川漁業協同組合)

- 鮭の採卵やふ化、稚魚の放流、加工品の販売を行う
- 震災後も以前と変わらずに、木戸川の鮭を買ってくれる人が多くいて励まされた
- 檜葉町の伝統と新しいことを組み合わせ、魅力ある町にしていきたい



大友俊信さん (大友農機商会)

奥さんは双葉町出身

- 農機具の販売、修理、農作業へのアドバイスを仕事としている。震災後は、お客さんに頼まれればバイクの修理まで
- 若い世代が少ない町の現状は、仕事がしたい若者にとってはチャンス
- 人とのつながりを大切にしている。つながりがあると必ず誰かが助けてくれる



佐藤憲之さん (有限会社がんたら)

- 現在は仕事を再開し、米づくりから契約販売、また海外での米づくりの普及にも尽力
- “人間至るところ青山あり”ふるさとではなくても、今いる場所で志を立てて活躍することはできる
- 農業に興味がある若者大募集中!





ふたば×ならは スタディ

Futaba X Naraha

スタディツアー スケジュール

1日目

楢葉町内視察&語り部

ほっつあれDE
いいんかいっ?!

こめ屋 がんたら

大友農機商会

木戸川漁業協同組合

2日目

澤上石材工業

双葉町内視察

双葉町復興
まちづくり計画の説明

振り返り

2日目

ふるさとの
今を知る

in 双葉町

ツアー2日目は双葉町を訪れました。まずは、株式会社澤上石材工業の澤上敬さんが町内で行っている墓石の修復作業を見学。

創業100年の歴史を持つ澤上石材工業はお客様を大切に、そして多くの人から愛される石材店です。澤上さんは、震災後に事業を再開したいわき市内から町内へ通う日々を過ごしています。

町内には今でも震災当時の状態で倒壊したままの墓石がいくつ也存在しま

す。そんなお墓を丁寧に修復するのは「双葉町の人に恩返しをしたい」という気持ちから。

そして「先はまだ見えないけれど、前を向いてやっていきたい」と話す澤上さん。町に戻りたくても戻れない現状。それでも、その人にしかできない関わり方があることを学ぶことができました。

その後は、双葉町役場復興推進課 石上崇さんから「双葉町復興まちづくり計画(第二次)」の説明がありました。双葉町がこれからのように姿を変えていくのか。説明を聞き、町を自らの目で見ることによりイメージします。

石上さんからは「若い人たちと一緒にまちづくりをしたい」という言葉がありました。若い世代の考えや意見をまちづくりに取り入れるためにも、今回のスタディツアーのような場は貴重な機会となりました。





2日目の午後は、いわき市内でツアーを通じて感じたことや考えたことなどを参加者同士で話し合いました。

榎葉町や双葉町で出会ったみなさんから感じた、ふるさとへの想いや仕事への誇り。今自分にできることをする。その先に大切にしたいふるさとの姿があることを実感しました。

そんなみなさんの言葉に影響を受けた参加者からは「若者同士で話し合える場を作りたい」「住民のエネルギーを集めて、まちづくりに活かしたい」といった意見が出るなど、まちづくりのために自分にできることをじっくり考える場となりました。

ふたば×ならばスタディツアー。2日間を通じて参加者が体験した2つの町。今の町に直に触れることで、ふるさととの関わり方を考えるきっかけになったと参加者たちは話します。

「ふるさとのために何ができるのか」「一人ひとりの考えを積み重ねることが、まちづくりへの大きなエネルギーになるのではないのでしょうか。」

ツアーに参加してどうでしたか？

町民のみなさんから聞いていた双葉町内の思い出の場所を、実際に見ることができた。また震災から6年が経過した町の今を知ることができた。

趣味や仕事を通じて自分にできることをすることが、ふるさとのためになると思った。

そこんともっと知りたい！

双葉町の他の地区も見てみたい。また「町民が考える未来の町の姿」をもっと知りたい。

「若い人に戻って来てほしい」という声が多かった。そのためどのような方向性がよいか考えたい。

人とのつながりが大切だとわかった。また、復興のために何かをやるとうときは一人ひとりが抱える課題を知ることが大切。

双葉郡で活動する他の団体や町民の話を聞いてみたい。町民主体のまちづくりへの手掛かりになると思う。

これからも双葉町と・・・

町民主体のまちづくりをしている他の自治体や団体の方の話をもっと多く聞いてみたい。事例などを聞くことで、新しい産業の創出につながるかもしれない。

若い世代・子育て世代で集まって意見交換をしたい。それをきっかけに若者グループの結成につなげていきたい。



桜並木(平成28年撮影)

水中生物観察会(平成20年撮影)

ふたばのイトコ再発見!

四季を彩る前田川

前田川とは

前田川は、5つの支流(中田川・松倉川・戒川・根小屋川・松迫川)を持つ前田川水系の本流で、支流を含めると双葉町内の多くの行政区を流れています。平成28年12月に制作された「ふたばふるさとカルタ」の読み札募集でも、最も多く読まれていたのが「前田川」で、それに続く「ダルマ市」「清戸迫」「桜」などの2倍以上の応募数でした。このことから前田川へのみなさんの並々ならぬ想いが伝わってきます。

双葉町は米作りが盛んなことから、ゴールデンウィーク頃に行われる水田への引水が一番の役割です。一方で、季節ごとに行われる多くの行事なども、前田川と町民のつながりや愛着を強めるための大きな役割を果たしています。

今月号では季節ごとの行事や日常生活での関わりなどを、町民のみなさんの思い出とともに紹介します。

春

「土手でワラビやゼンマイなど**山菜**を採った。(自分達より)町の中心に住んでいる人たちが中上流まで来て、よく採っていた」

「春には堤防に沿ってたくさん**桜**が咲き、夜は**ライトアップ**された。特に図書館辺りの桜は見事だった」

秋

「子どものころ体育館のそばで**コイ**や**マス**釣り大会があり、優勝した。賞品として、クーラーボックスをもらったことを思い出す」

「**堰**ができる以前は上流まで**サケ**が上ってきた」

四季折々の表情

夏

「昔に比べて上下水道が整い、川がきれいになったら、**ホタル**が戻って来た」

「以前は多くの家で**お盆の仏壇飾り**を流して供養していたけど、川が汚れるのでいつの間にかしなくなった」

「小さいころは家族で、中学生ぐらいになると友達と川に行き、**水遊び**をした」

冬

「毎年町民グラウンドで町の**消防団出初式**があり、前田川から水を取って、放水訓練をした」

「虫の駆除のため、消防団が地区ごとに**野焼き**をした」

こぼれ話

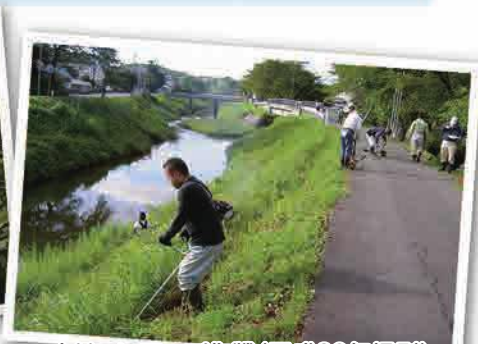
「**魚釣り**をしている人がたくさんいて、上流ではイワナやヤマメ、中・下流ではオイカワやフナ、コイが釣れた」

「支流の中田川には**河童伝説**がある」

「**双高応援団**が発声練習をしていた」



七日沢溪谷(平成18年撮影)



クリーンアップ作戦(平成20年撮影)



サケの遡上(平成27年撮影)



消防団出初式放水訓練(平成22年撮影)

※写真提供: 双葉町役場秘書広報課、教育委員会

ふたさぼのお スマイルフォト

～笑顔でみんなをつなげたい～



2月15日(水)
社会福祉協議会
スマイルアップ体操
(加須市)



3月12日(日)
双葉料理教室春の陣
in南相馬(南相馬市)



3月14日(火)
ウルトラ警察隊
送別会(郡山市)



3月16日(木)
YoY交流会
in 群馬(前橋市)



3月23日(木)
双葉町立幼稚園・小学校卒業式(いわき市)



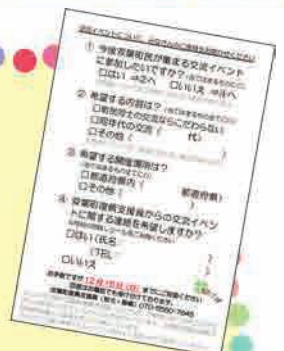
交流イベントについてのアンケートご協力へのお礼

平成28年11月～12月に、これまでふたさぼ(双葉町復興支援員)が交流イベントを実施していない地域のみなさんを対象に、アンケートを行いました。いただいたご意見は、町民のみなさんのつながり作りの参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

アンケート結果に関するご質問、ご意見等があればお気軽に問い合わせください。

ふたさぼ(双葉町復興支援員)

【問い合わせ先】ふたさぼ秋元・飯嶋 ☎070-5550-7645 ※電話に出られない場合は、折り返しご連絡いたします。



町からのお知らせ

情報

廃油回収を継続します

環境省
双葉町住民生活課

環境省による、ご自宅等に残置された灯油、混合油、ガソリンなどの回収については、平成29年4月以降も継続しております。回収をご希望の方は下記申込み先までご連絡ください。

なお、環境省による廃油等の回収・処分を希望される場合の費用負担は発生しません。ご理解・ご協力をお願いします。

【申込み先】東京電力ホールディングス(株)
【電話番号】080-6847-2986
【受付時間】9:00~17:00(土・日・祝日を除く)



お願い 消防署からのお知らせ

春は、全国的に空気が乾燥しやすく火災が起きやすい時季なので、以下の点に注意して火災予防に努めましょう。



寝たばこやたばこの
投げ捨てはしない。



ストーブには、燃えやすい
物を近づけない。



コンロ使用中に離れる
場合は、火を消す。

住宅用火災報知器は、10年を目安に交換をおすすめします！
ボタンを押す、またはひもを引いて作動確認をします。

●定期的に家族で火災時の警報音を確認しましょう。

正常な場合は？

正常をお知らせするメッセージ
または警報音が鳴ります。

ピピ、
ピーピー



ピーピーピー
火事です



※警報音はメーカーや製品により異なります

音が鳴らない場合は？

電池がきちんとセットされているか、
ご確認ください。

……



しーん



それでも鳴らない場合は、「電池切れ」か「機器
本体の故障」です。取扱説明書をご覧ください。



火災と救急は119番

消防署連絡先

浪江消防署
☎0240-34-7360

富岡消防署
☎0240-25-2119



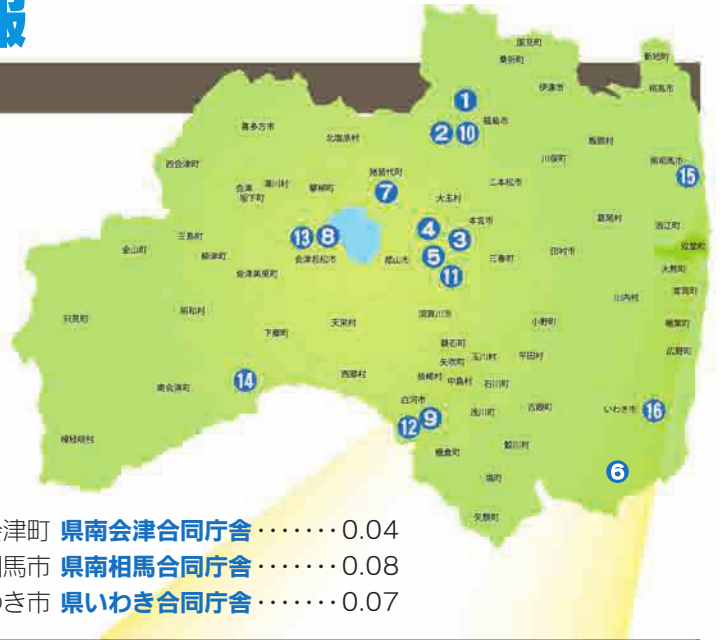
放射線モニタリング情報

福島県内 (単位: $\mu\text{Sv}/\text{時}$)

平成29年3月24日

- ①福島市 北幹線第二応急仮設住宅 ……0.13~0.19
- ②福島市 さくら応急仮設住宅 ……0.07~0.15
- ③郡山市 日和田応急仮設住宅 ……0.11~0.23
- ④郡山市 喜久田応急仮設住宅 ……0.08~0.42
- ⑤郡山市 富田応急仮設住宅 ……0.13~0.20
- ⑥いわき市 南台応急仮設住宅 ……0.04~0.06
- ⑦猪苗代町 上川原応急仮設住宅 ……0.06~0.07
- ⑧会津若松市 第二中学校西応急仮設住宅 ……0.07~0.22
- ⑨白河市 郭内応急仮設住宅 ……0.11~0.18
- ⑩福島市 県北保健福祉事務所 ……0.17
- ⑪郡山市 県郡山合同庁舎 ……0.10
- ⑫白河市 県白河合同庁舎 ……0.07
- ⑬会津若松市 県会津若松合同庁舎 ……0.06

- ⑭南会津町 県南会津合同庁舎 ……0.04
- ⑮南相馬市 県南相馬合同庁舎 ……0.08
- ⑯いわき市 県いわき合同庁舎 ……0.07



双葉町内 (単位: $\mu\text{Sv}/\text{時}$)

地区	地点	平成24年 4月1日	平成29年 3月24日
新山	新山公衆トイレ脇公営駐車場	—	0.61
新山	新山公民館	—	0.42
新山	双葉町歴史民俗資料館	—	0.39
新山	双葉南小学校	—	0.47
新山	双葉中学校	—	0.21
新山	県立双葉高等学校	—	0.25
新山	中央公園	—	0.54
下条	双葉総合公園	2.60	0.83
下条	双葉町役場	—	0.28
郡山	郡山公民館	1.48	0.50
細谷	細谷公民館	2.31	0.62
三字	三字公民館	2.53	0.97
山田	山田農村広場	24.47	6.16
石熊	石熊公民館	12.10	2.56
長塚	双葉町体育館	6.25	1.77
長塚	長塚二公民館	3.26	0.78

地区	地点	平成24年 4月1日	平成29年 3月24日
長塚	双葉町青年婦人会館	—	2.07
長塚	町西住宅	—	0.26
長塚	JAふたば北部営農センター	—	6.24
長塚	双葉北小学校	—	1.73
長塚	ふたば幼稚園	—	1.56
長塚	双葉駅北側駐車場	—	0.42
長塚	双葉町児童館	—	0.32
羽鳥	上羽鳥	1.89	0.66
羽鳥	羽鳥公民館	1.73	0.53
寺松	寺松公民館	3.46	1.10
渋川	渋川公民館	1.48	0.47
鴻草	北部コミュニティーセンター	4.30	1.38
中田	中田公民館	0.77	0.26
両竹	両竹公民館	0.54	0.10
浜野	浜野公民館	0.34	0.08

原子力規制委員会ホームページより

※全国及び福島県の空間線量測定結果については原子力規制委員会ホームページでご覧になれます。▶<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/>

編集後記

今月号では「ふたば×ならはスタディツアー」を掲載しました。

ツアーで出会ったみなさんは、趣味や仕事を通じた“つながり”の中で楽しみを見つけていることがわかり、私も“人生を楽しむ”ことについて考えるようになりました。

そんなときに脳裏に浮かんだのは、これまでの取材でお会いした双葉町民のみなさん。民謡や編み物、料理、卓球、グラウンドゴルフなどの趣味を生きがいに、各地で楽しい毎日を送る人がたくさんいます。

“できること”が増えるより、“楽しいこと”が増えるのが、いい人生。みなさんの姿からそんなことを思いました。

私もこの春から何か新しいことを始めてみようと思います。
(ふたさほ 山下真央)

後世に残したい双葉町

十万山の「町民山登り運動」は毎年10月に開催されていました。子どもから大人まで参加者全員が楽しめるイベントで、多いときには200人ほどの参加者が山頂を目指しました。

登頂後の楽しみとして、じゃんけん大会、大声大会、登頂皆勤賞に最高年齢賞、最少年齢賞の受賞式などがありました。町を一望しながら車座になりみんなで過ごす昼食の時間が私は大好きでした。

十万山に登るみなさんと共に過ごした時間は今も私の宝物となっています。山の自然を必要以上に傷付けることなく、共存していた時代。頂上から見える町の景色や豊かな自然を後世に残したい、そう強く願っています。

